

有限会社川又タオル

自動タオルヘム縫製機導入による内製化並びに納期短縮事業

タオル製造工程のうち、ヘム縫い工程（両端の折り返し部）において、高齢化による職人の確保難や外注による納期の長期化、品質のバラつきやコスト負担等が課題である。そこで、自動タオルヘム縫製機を導入してヘム縫いやタグ付作業を内製化し、納期短縮や品質の平準化を進めることで受注拡大を図る。

事業取組みの経緯

まず、タオルのたて方向（タオルの長い部分）の両端がほつれないよう糸でかがっていく（これを耳巻という）。耳巻機で耳巻した後に手で裁断し、今度は、よこ方向（タオルの短い部分）の両端を縫製する。これをヘム縫いという。

(1) ヘム縫い職人の高齢化

ヘム縫い職人は、70代3人、60代4人、50代3人である。ヘム縫いと同時に行うタグ付作業において、今治ブランドのタグ付できるのは6人、全てのヘム縫い及びタグ付けが安心して任せられるのは3人である。真っ直ぐな縫製及びタグ付には、長い経験と高度な技術を要する。

(2) 外注費の増加

通常の商品タグ付やクリーニングタグ付は機械で可能だが、今治タオルのブランドタグは小さいため手仕事となる。現在、枚数の多いものは全て外注の自動ヘム縫いに出している。外注先でもヘム縫い職人の高齢化は問題であり、また、自動ヘム縫い機を持つ外注先は、今治市内に数軒あるが、後継者不在等により将来的に廃業が危惧される業者もある。

実施内容

自動タオルヘム縫製機を導入した。従来は、社内で耳巻を行い外注に出すために1枚ごとに裁断していたが、内製化することにより裁断担当者が不要となり、自動タオルヘム縫製機の担当へのシフトが可能となった。



自動タオルヘム縫製機



事業取組みの成果

自動タオルヘム縫製機導入による内製化により、従来外注に出した場合7日間掛かっていた作業が、当日ヘム縫いが可能となり、納期が短縮された。従来、裁断して外注加工に出していたが、裁断も不要となり、裁断の時間短縮並びに裁断の人間を縫製に回すことが可能となった。これにより、平均50万円掛かっていた外注費が削減されたほか、手動で400枚～500枚しか処理できなかったものが1日あたり3,000枚の縫製が可能となり大口の注文にも対応できるようになった。

今後の活動予定

昨年、金融機関のサービス品として約150万枚の大口の引き合いがあった。しかし、ヘム縫い対応の納期が間に合わなかったためお断りした経緯があった。今後は、こうしたスポットの大口案件に対応が可能となったことから、スポット案件も積極的に受注することで売上増加に繋げていく。



有限会社川又タオル

■代表者／代表取締役 川又 馨

■本社住所／〒794-0057 愛媛県今治市泉川町1-3-33

■TEL／0898-23-3464

■FAX／0898-31-2040

■メール（代表）／ka-towel@icknet.ne.jp

■設立年月日／昭和62年1月19日

■資本金額／500万円

■従業員数／11名

■業 種／タオル製造

■事業拠点／本社工場 愛媛県今治市泉川町1-3-33

企業概要

昭和27年の創業以来、長年、国産タオルの製造販売を行っている。主に、仏事タオル、リネンタオルを主要商品として、仏事タオルは全国へ、リネンタオルはホテル向けを主体に東日本のリネン業者向けに販売している。おしほり・ハンドタオルから、フェイスタオル、バスタオルまで、各種タオルについて、小ロットからの受注に対応しており、近年では、特殊糸を使用した光沢のある高級タオルを開発し、冠婚葬祭互助会のカタログに同製品が掲載されたことから、仏事用のタオル受注が増加している。

主要取引先

冠婚葬祭互助会、サミー株式会社、全国のリネン業者 他

主要商品



主要設備

タオル織機（550回転4台 うち3台IoT対応、220回転4台）

自動タオルヘム縫製機、耳縫製用ミシン3台、ヘム縫製用ミシン6台

担当者	代表取締役 川又 馨
連絡先	0898-23-3464
連絡先E-mail	ka-towel@icknet.ne.jp